

気候変動対策への
アクション

TOPIC

今できる省エネを考える

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



2021年8月、「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)は、報告書の中で「温暖化は人類の影響によってもたらされている」ことを初めて明言しました。近年頻発する自然災害などの原因ともいわれる温暖化に対し、私たちには何ができるのか。省エネ月間の今月、今、個人が取り組める省エネについて考えます。

2020年10月、菅義偉首相(当時)は所信表明演説の中で、グリーン社会の実現に向け、最大限注力することを掲げ、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言しました。続けて「温暖化への対応は経済成長の制約ではなく、積極的に温暖化対策を行うことが、産業構造や経済社会の変革をもたらし、大きな成長につながるという発想の転換が必要」と述べました。これは日本だけの動きではなく、120以上の国・地域が、「2050カーボンニュートラル」を表明しており、パリ協定[※]で掲げられた「世界的な平均気温上昇を産業革命前と比べ、2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする(2℃目標)」という目標達成に向けた世界全体の動きといえるものです。

※2015年、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)にて採択された、20年以降の地球温暖化対策における世界的な枠組み。1997年に採択された京都議定書に代わるもの

カーボンニュートラルとは

カーボンニュートラルとは、菅前首相が述べている通り「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」ことですが、温室効果ガスの排出量(プラス)を、森林による吸収量(マイナス)などで相殺し、実質的にゼロにする考え方です。

日本では20年12月、経済産業省が関係省庁と連携し、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定。資源エネルギー庁は、温暖化への対応を「経済成長の制約やコスト」と考える時代から、「成長の機会」ととらえる時代になりつつあるとし、「グリーン成長戦略」を「経済と環境の好循環」につなげるための産業政策と位置づけています。多くの企業、自治体でも、「2050カーボンニュートラル」を目指した独自の目標や取り組みを策定し、生産や流通の過程で排出される温室効果ガスの削減、再生エネルギーへの切り替えなどを進めています。

市民が取り組むカーボンニュートラル

経済・産業分野がさまざまな努力を進める一方で、国民や生活者向けの取り組みとして、「ゼロカーボンアクション30」[※]が示されています。これは、内閣官房長官が議長となって進められた国・地方脱炭素実現会議において取りまとめられた「地域脱炭素ロードマップ」の中で、日常生活における脱炭素行動と、そのメリットを紹介し、身近なところでの無理のないアクションを促すものです。

その内容は、「食事を食べ残さない」「宅配サービスを一回で受け取る」といった、誰にでもすぐに取り組めるもののほか、「太陽光パネルの設置」や「省

家庭でできる省エネ

資源エネルギー庁が省エネポータルサイトにまとめた家庭向けの情報によると、家庭のエネルギー消費の50%以上は電気が占めるため、家庭で省エネを進めるには、電気の使い方を見直す必要があるのだそうです。

節電のためのポイントは3つ

- ①減らす…消費電力を減らすこと。節電と省エネの両方に効果あり。
- ②ずらす…電気を使う時間帯をずらすこと。節電にはなるが省エネにはならない。
- ③シフト…電気からガスへの切り替え、あるいは省エネ家電へ買い替えること。
省エネになるかどうかは場合による。

ここでは、「減らす」ことで実現できる省エネの一例をご紹介します

エアコン(暖房)

室外機の周りに物を置かない!
吹き出し口がふさがると、暖房効果が下がります。

早めにOFF!
外出の直前ではなく、少し早目にOFFにしましょう。

電気ポット

保温は低温で
低めの温度で保温して、必要な時も再沸騰させましょう。

夜はプラグを抜く
長時間使わない時は、保温するよりも再沸騰の方がエネルギー消費が抑えられます。

お風呂

間をあけずに入る
追い炊きをしないで家族が入浴を済ませられるよう、間隔をあけずに入る!

ドライヤーも短時間で
短時間でも多くのエネルギーを使うドライヤー。タオルでよく髪の水気を取ってから使しましょう。

冷蔵庫

温度設定は弱に
冬場は「弱」でも十分庫内が冷えます。電力消費の少ない「弱」に設定!

ドアの開閉は素早く
開けている時間を20秒から10秒にすると、年間のCO₂削減量が3kgに。

壁からの適正距離を保つ
熱を放出するために必要な、壁からの距離を守りましょう。上に物を置くのも避けるのがいいでしょう。

たくさん入れない
常温保存できるものも冷蔵庫に入れていませんか? 物を詰め込みすぎないように、注意しましょう。

ゼロカーボンアクション30の7つの項目と事例

- ① 電気等のエネルギーの節約や転換
- ② 住居関係
- ③ 移動関係
アクション: スマートムーブ
○徒歩、自転車・公共交通機関で移動
○エコドライブ(発進/急停車をしない等)の実施
○カーシェアリングの活用
<メリット>
○健康的な生活の促進(運動量の確保等)
○徒歩・自転車利用で密を回避、交通渋滞の緩和
○燃費の把握、向上
○心のゆとりで交通事故の低減
○自動車購入・維持費用の節約、TPOに合わせた車の選択可能
- ④ 食関係
- ⑤ 衣類、ファッション関係
- ⑥ ごみを減らす
アクション: フリマ・シェアリング
○フリマやシェアリング、サブスクリプション等のサービスを活用する
<メリット>
○購入・維持費用の節約(必要な物が安く手に入る)
○不要な物が必要とする人に使ってもらえ、収入にもなる
- ⑦ 買い物・投資
アクション: 脱炭素型の製品・サービス
○環境配慮のマークが付いた商品、カーボンオフセット・カーボンフットプリント表示商品の選択
<メリット>
○より簡易な包装の商品、詰め替え製品などを選ぶことで自分の購買によって環境負荷低減に貢献できることが分かる
○ごみの分別が楽になる(ラベルレスのペットボトルなど)
○市場への供給量が増え、環境配慮型商品の多様化・価格低減化につながる

「工ネ家電の導入」といったコストがかかるものも紹介されていますが、売電や節電による金銭的なメリットを示すなど、行動へのハードルを下げた内容になっていきます。温暖化への対応を「制約やコスト」と考えるのではなく、「成長の機会」ととらえるのは、経済・産業分野に限らず、各家庭でも同じことが言えるのかもしれない。

さらに、「暮らしに木を取り入れる」「植林等の活動(への参加・協力)」といった項目もありますが、メリットとして挙げられているのは、森林による二酸化炭素の吸収固定機能に関することよりも、「生活の中で木を取り入れることで温かみや安らぎを感じられる」といった心理面での効果や、「環境を大事にする気持ちを行動で表せる」といった啓発的な側面が強調されています。オイスカが進める、国内外での植林活動

動や国内における国産材活用の推進などの取り組みが、個人のゼロカーボンアクション促進へのきっかけとなることが期待されます。

2月は省エネ月間

「ゼロカーボンアクション」の30の項目の多くは「省エネ」に関するものです。特に気温が下がるこの時期は、暖房器具の使用が増加することから、エネルギー需要が増えるため、冬期間中の2月は省エネ月間とされています。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「新しい生活様式」が広がる今、換気をしながらの暖房器具の使用といった、これまでとは違った節電・省エネ対策が求められています。

省エネ月間の今月、皆さんもできることから省エネ、そしてゼロカーボンアクションに取り組んでみてください。